





















番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-10	日本史B	3	P	4	選択

### 何を学ぶか

- (1) 原始古代から現代までの日本の歴史を学ぶ。  
(2) 日本文化の特色や伝統への理解を深める。  
(3) 複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

### 学習目標

- 原始古代からの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培う。

### 学習方法

- (1) 世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。  
(2) 国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。  
(3) 資料集を活用したり、様々な情報(新聞やTなどで)を収集する。  
(4) ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。  
(5) 文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

### 評価方法

- 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
日本史B	原始・古代	/	■	■	■	■	■						/	/	/											/	/	/								
	中世	/						■	■	■	■	■	/	/	/												/	/	/							
	近世	/											/	/	/	■	■	■	■	■								/	/	/						
	近代	/											/	/	/													/	/	/						
	近現代	/											/	/	/												■	■	/	/	/	■	■	/	/	/

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-11	地理A	3	S理・P	2	必修

### 何を学ぶか

- ① 自然環境, 資源, 産業, 都市・村落, 生活文化等の事象を通して現代世界の特色を主題的な方法を基に考察する。
- ② 現代世界を地域(市町村規模, 国家規模, 州・大陸規模)のスケールを踏まえながら地誌的に考察する。地誌的な内容を中心に学習して, 結びつきを理解する。
- ③ 現代世界の諸課題の現状と背景を理解し, 地球的問題群の環境問題・人口問題などを将来へ大きな課題としてとらえられるように学習する。
- ④ 世界を理解するために, 世界の基礎的な知識を再確認する。

### 学習目標

- 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景, 日常生活との関連を踏まえて考察し, 現代世界の地理的認識を養うとともに, 地理的な見方や考え方を培い, 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 学習方法

- 教科書・副教材を使用して, 写真などの教材を参考にして, 講義型の授業を中心に行うが, 作図などの作業を随時実施する。授業時には, 教科書・副教材・地図帳・ノート・色鉛筆を必ず用意することが必要となる。

### 評価方法

- 評価は, 定期考査を7割～8割程度, 小テスト, 課題, 授業態度(興味・関心, 意欲, 知識, 授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
地理A	地球儀や地図でみる現代社会	■	■	■																		
	生活を取りまく地理的環境				■	■	■	■														
	アジアの生活・文化と環境							■	■	■												
	イスラーム圏の生活・文化と環境								■	■												
	中南アフリカの生活・文化と環境												■	■								
	ヨーロッパの生活・文化と環境													■	■	■						
	ロシアと周辺国の生活・文化と環境														■							
	北アメリカの生活・文化と環境														■	■	■					
	中・南アメリカの生活・文化と環境															■						
	オセアニアの生活・文化と環境																■					
	地球的課題・人口問題																■	■				
	地球的課題・食糧問題																	■	■			
	地球的課題・環境問題																	■	■			
	地球的課題への国際協力																			■	■	













番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-17	数学Ⅲ	3	S理	6	必修

### 何を学ぶか

- ・高校における数学学習の締めくくりとして、またより高度な数学への入り口として、微分学・積分学の基礎を学びます。
- ・複素数平面では、複素数に関する知識を深め、2次曲線では、放物線・楕円・双曲線について、関数では、分数関数・無理関数について、極限では、数学Bで学習した数列の極限をさらに深く学習するとともに、関数の極限も学習し、次の微分・積分への基礎的概念を学びます。
- ・微分法・積分法では、数学Ⅱで学習した3次までの関数に加え、高校数学で学習したすべての関数について微分・積分の計算を学びます。そして、変曲点などの学習でグラフの精密な形についても理解を深め、近似式・体積も学習します。
- ・数学Ⅲの内容が終了した後は、共通テスト・私大推薦一般入試問題などの問題演習を行います。

### 学習目標

- ・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強力を体験します。
- ・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
- ・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
- ・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

### 学習方法

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

### 評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合  
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
数学Ⅲ	式と曲線・関数	■	■										///	///											///	///					///	///		
	複素数平面			■	■								///	///												///	///					///	///	
	極限					■	■	■					///	///												///	///					///	///	
	微分法								■	■	■		///	///												///	///					///	///	
	微分法の応用											■	///	///	■	■										///	///					///	///	
	積分法とその応用													///	///			■	■							///	///					///	///	
数学Ⅰ・A・Ⅱ・B	入試問題演習											///	///							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	///	///			









番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-22	物理	3	S理・A理	4	選択

何を学ぶか

○自然界にある現象のうち、物理的な現象について「物理基礎」よりもさらに発展的に扱います。力学・熱力学・波動・電磁気・原子の各領域の諸現象について、その法則性を深く学びます。

学習目標

○自然界で起こる物理的な現象の中に存在する法則性・規則性を見だし、諸現象をその法則性・規則性で説明できることを目指します。

学習方法

○力学・熱力学・波動・電磁気・原子領域ごとに、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。

評価方法

- ・定期考査……毎回の考査において、授業内容を踏まえた基礎・応用問題を出題し、そのうち30点以上の得点を合格点とする。
- ・提出物 他……適宜提出を求め、取り組みの姿勢や内容に応じて採点する。
- ・年度末において、定期考査と提出物他の得点を総合し、単位認定を決定する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月							
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬								
物理	力学	/	■	■	■	■	■	■	■	■	■	/	/	/											/	/	/												
	熱力学	/										■	■	/	/	/																			/	/	/		
	波動	/														■	■	■	■	■																/	/	/	
	電磁気	/																			■	■	■	■	■	■										/	/	/	
	原子分子	/																																		■	■	/	/

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-23	化学	3	S理・A理	4	必修

### 何を学ぶか

- 『化学基礎』で学んだ内容をもとに、化学の本質に迫って行く。
- ・前半では、気体・溶液・反応速度・化学平衡を、後半では無機物質の性質の各論・有機化合物を学習する。
- ・また、それぞれの物質がその特徴をいかして私たちの日常生活の中で利用されていることや、人間と化学の関わり方を考える。

### 学習目標

- 気体・希薄溶液の性質元素、化学反応の速さ・化学平衡の仕組みを通して物理化学の分野を、非金属元素の単体・化合物、金属元素の単体・化合物を典型元素と遷移元素に分けて学習し、性質・用途を理解する。その後、有機化合物の特徴を理解し分析法を身につける。
- また、炭化水素・脂肪族化合物・天然有機化合物・高分子化合物の性質・用途を理解する。
- 以上を通して、化学的な見方、考え方を養うとともに、自然科学全体に対する興味・関心を引き起こすことを目標とし、2年次の『化学基礎』から引き継ぐ。

### 学習方法

- 基礎的な学習を大切に、特に一つ一つの用語の定義や意味をしっかりと理解できるように丁寧に学習する習慣を身につける。また、実験や画像を通して、五感を通して物質をとらえていくことを重視する。
- 化学基礎に比べて、数式の取り扱いが多くなるが、演習の時間も多く使いながら、問題を解くことで理論を実感できるようにする。あくまで、授業をしっかりと聞いて、授業の中ですべてのことを解決していく集中力を期待している。
- 化学は実験からスタートする学問である。実験は積極的に行い、多くのことを実験から学んでほしい。実験レポートは丁寧に考察しながら書き上げるように取り組む。

### 評価方法

定期考査を中心に、実験レポートなども含めて知識・理解・興味・意欲等を総合的に判断する。実験レポート等は1割程度とする

5月

7月

10月

12月

1月

○は定期考査実施予定

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
化学	気体	■	■																															
	溶液				■	■																												
	化学反応の速さ						■	■																										
	化学平衡								■	■																								
	非金属元素									■	■																							
	典型金属元素															■	■																	
	遷移元素																	■	■															
	脂肪族炭化水素																			■	■													
	脂肪族化合物																					■	■											
	芳香族化合物																							■	■									
	天然有機化合物																									■	■							
	高分子化合物																												■	■				

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-24	生物	3	S理・A理	4	選択

### 何を学ぶか

- 生物基礎の内容を、さらに深く掘り下げて、次の事柄を学習する。
  - ・細胞、タンパク質、代謝(生体内での化学反応)等について
  - ・遺伝子とそのはたらきについて
  - ・有性生殖と発生について(動物を中心に)
  - ・動物の刺激受容と反応・行動、植物の環境に対する反応について
  - ・生物の集団(個体群、生物群集)のあり方、生物集団と環境の関係について
  - ・生物進化と系統について

### 学習目標

- 生物や生物現象に関する概念や原理・法則を理解し、生物学的にとらえる力を養う。
- 授業や実験を通して科学的に探究する態度や能力を深める。
- 身の回りの生物や生命現象に対する関心や探究心を高める。
- さらに生物や生命現象と人間の関わりについての理解を深める。

### 学習方法

- 授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- 授業中は先生の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- 家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- 実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につける。
- また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

### 評価方法

- ・定期考査は年間5回実施する。授業内容の確認として小テストを実施する場合もある。
- ・年間7回程度の実験を行い、レポートを作成する。
- ・考査点と平常点(1~2割)で評価する。
  - \* 平常点は、提出物の状況・小テスト・授業態度等により知識・理解・興味・意欲の観点から評価する。

○は定期考査実施予定

⑤月

⑦月

⑩月

⑫月

①月

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
生物	生命現象と物質	■	■	■	■	■																		
	遺伝子のはたらき						■	■	■	■														
	生殖と発生												■	■	■	■								
	生物の環境応答															■	■	■	■					
	生態と環境																		■	■	■			
	生物進化と系統																					■	■	





番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-26	地学基礎	3	S文・A文	2	必修

### 何を学ぶか

- 地球とそれを取りまく宇宙のようすを知り、これらがどのように誕生し、どのように遷移して現在に至ったのか、またこれらのことがどのようにして明らかにされてきたかを学びます。
- 内容は「固体地球とその変動」、「移り変わる地球」、「大気と海洋」、「宇宙の構成」、「自然との共生」。

### 学習目標

- 一つは惑星としての地球の特徴および地球表層や内部に見られる地学的事象を、地球表層や内部を相互に関連させ、地球の歴史の経過の中でとらえることです。
- もう一つは地球の大気圏及び水圏での現象が太陽放射エネルギーを原動力としていることと、太陽や恒星の活動を通して宇宙の構造や広がりを理解することです。

### 学習方法

- 教科書については、本文を熟読することはもちろんのこと、図表・グラフ・写真などについても丁寧にすみずみまで目を通し、地学の基本的な概念の形成を図ります。
- 実習の時間については、各単元の学習活動と関連させながら、図表の読みとりやグラフ等のデータ処理をして考察をします。
- また、実験観察や自然観察を通して、学習目標と関連させながら、深く学習していきます。

### 評価方法

- 定期考査については、1・2学期に中間・期末考査と3学期に学年末考査を実施します。
- 実習や実験観察などに関する提出物は、創意工夫されているかに着目します。
- これらを中心に知識・理解・興味・意欲の到達度の度合いを判断し評価します。

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
地学基礎	地球の構成と運動	/	■	■	■	■				/	/	/								/	/	/			
	地球の変遷	/					■	■	■	■	/	/	/							/	/	/			
	大気と海洋	/								■	/	/	■	■	■	■				/	/	/			
	太陽系と宇宙	/									/	/	/	/		■	■	■	■	■	/	/	/		
	地球の環境	/									/	/	/	/					■	/	/	/	■	■	



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-28	体育	3	S・A	2	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテスト、身体づくりを行う。  
 ・その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。活動は前期・中期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。グループで協力し、各種目の技術向上を目指す。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断(10%)、④知識・理解(10%)の割合で総合的に評価する。  
 ・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
体育	男 女	集団行動・スポーツテスト	■	■																			
		体づくり運動			■																		
		体育理論								■													
		剣道				●	●	●	●	●	●												
		サッカー				●	●	●	●	●	●												
		バスケットボール				●	●	●	●	●	●												
		バレーボール				●	●	●	●	●	●												
		バドミントン				●	●	●	●	●	●												
		テニス				●	●	●	●	●	●												
		卓球				●	●	●	●	●	●												
		ソフトボール				●	●	●	●	●	●												
		ダンス				●	●	●	●	●	●												
		陸上競技				●	●	●	●	●	●												

■は必修種目 ●は選択して実施する種目

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-29	体育	3	P	3	必修

### 何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

### 学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

### 学習方法

・1学期始めにオリエンテーション、集団行動・スポーツテストを行い、1学期に1種目、2学期は3種目、3学期は球技を1種目実施する。  
 ・各種目とも基本的な体力、実践的な技能の習得を目指し、より高度なゲームができるよう授業を計画、実践することを目標とする。

### 評価方法

・種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断(10%)、④知識・理解(10%)の割合で総合的に評価する。  
 ・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	集団行動・スポーツテスト	/	/	/									/	/	/																
	剣道	/	/	/									/	/	/																
	男:テニス・体育理論	/	/	/									/	/	/																
	女:バドミントン・体育理論	/	/	/									/	/	/																
	ゴルフ	/	/	/									/	/	/																
	男:バドミントン	/	/	/									/	/	/																
	女:ソフトボール	/	/	/									/	/	/																
	男:サッカー	/	/	/									/	/	/																
	女:テニス	/	/	/									/	/	/																
	長距離走	/	/	/									/	/	/																

\* 剣道は、3年続けて受けた授業の確認として夏休みに昇級審査を受ける。

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-30	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	3	S文	2	選択

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・トレーニングを行う。その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。
- ・活動は前期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。
- ・グループで協力し、各種目の技術向上を目指し、生涯体育に繋げることを目標とする。

評価方法

- ・種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断(10%)、④知識・理解(10%)の割合で総合的に評価する。
- ・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解度である。欠席等をなくして1年・2年次以上に意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	男子																					
	女子																					
	前期選択																					
	後期選択																					

\*種目は ・ネット型(テニス・バドミントン・バレーボール) ・ゴール型(サッカー・バスケットボール)  
 ・ベースボール型(ソフトボール)

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-31	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	3	P	4	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

- ・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行なう。
- ・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。
- ・各自のテーマをみつけて、研究する。

評価方法

- ・種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断(10%)、④知識・理解(10%)の割合で総合的に評価する。
- ・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度である。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。
- ・研究、アンケート作成、実験方法思案、実験等を毎時間、評価する。スポーツへの関心・意欲・態度ならびに知識理解において、総合的に判断し評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
スポーツⅠⅡⅢ	体育理論 男子・女子	剣道(男女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
		バスケットボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
		バレーボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
		陸上競技(男女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
		硬式野球(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
		サッカー(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
		ソフトテニス(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。





番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-33	美術Ⅲ	3	S文・P	2	選択

### 何を学ぶか

- ・表現の基礎〈デッサン・ドローイング〉
- ・発想を構成する力〈アイデアスケッチ・エスキス・作品の原画〉
- ・絵画技法〈基本的技法・表現力〉
- ・デザイン〈デザインの基本・用途に応じた発想・構成力〉
- ・彫塑〈彫塑の基本技法・素材に応じた表現〉
- ➡ 絵画・デザイン・彫刻の分野の中から、各生徒が得意の分野を選択する。

### 学習目標

- ・素直な気持ちで、何を表現したいのか明確にする。〈独創性(オリジナリティー)を追求〉
- ・豊かで自由な表現力を養う。〈様々な表現技法を学び、新しいものに挑戦し、感性を豊かにする〉
- ・真摯に作品に取り組み、できる限り時間をかけて丁寧に仕上げる。〈表現力を深める〉
- ・基本的な表現技法をしっかり身につけ、生涯、趣味として生かせる技術を身につける。
- ・作品の表現と鑑賞を通して、美術への愛好心を養い、伝統文化への理解を深める。

### 学習方法

- ・表現基礎・リアルな表現〈鉛筆の細密デッサン・作品の下絵や原画をドローイング〉
- ・発想を作品の原画として構成する。〈イメージを明確にする ➡資料収集 ➡アイデアスケッチ・エスキス〉
- ・絵画技法〈油彩、アクリル絵具の基本に様々な画材で表現してみる。テーマ設定して制作する。〉
- ・卒業制作〈絵画・版画・デザイン・彫塑・工芸分野から各自の興味関心特性に応じて課題を選択〉
- ・卒業制作展、合評会などあらゆる機会を通して鑑賞力、共感力、発進力を身につける。

### 評価方法

- ・すべての作品を完成させて、提出することが原則。
- 【関心・意欲・態度】主体的に表現や鑑賞に取り組んでいるか。
- 【芸術的な感受や表現の工夫】自ら主題を見つけ、感性を働かせ、多様な表現を工夫しているか。
- 【創造的な表現の技能】基本技法を身につけ、主題に応じた表現で、丁寧に仕上げられているか。
- 【鑑賞の能力】素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたりして、多様な文化への理解を深められたか。
- ・欠席、遅刻過多や授業態度についても、点数化はしないが評価をする上で考慮する。

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
美術Ⅲ	表現基礎	■								■	■	■									■	■	■	
	絵画分野(選択)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■									■	■	■	■
	全分野(選択)	■								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				
	鑑賞	■							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				





番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-36	コミュニケーション英語Ⅲ	3	A	4	必修

何を学ぶか

・「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」の単語や文法事項を踏まえながら、まとまりのある文章を読んで、英文を正確に速く読み解く方法を学び、繰り返しトレーニングを行う。  
 ・また、様々なタイプの文章に接し、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりする力を養う。

学習目標

・英語を読んで、情報や書き手の意向などを素早く正確に理解する能力をさらに伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。  
 ・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

- ① 新出単語および熟語の意味、構文を授業内で理解する。
- ② ①を使って、初見の英文を読んで、T or F, Q and A等の問題を解きながら大まかな内容を把握する。
- ③ 英文の音読、英文中の文法事項を使っての自由英作文等でSpeaking, Writingの力を伸ばす。
- ④ 副教材を活用して、語彙力や文法力を高める。

評価方法

授業中の小テストや提出物・出席状況・授業態度を成績の2割程度とし、定期考査の成績と合わせて最終の評価とする。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
コミュニケーション英語Ⅲ	Lesson 1	■	■	■																																	
	Lesson 2	■			■	■	■																														
	Lesson 3	■						■	■	■																											
	Lesson 4	■									■	■	■																								
	Lesson 5	■												■	■	■	■																				
	Lesson 6	■																■	■	■																	
	Lesson 7	■																			■	■	■														
	Lesson 8	■																						■	■	■											
	Lesson 9	■																								■	■	■									
	Lesson 10	■																									■										



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-38	英語表現Ⅱ	3	S	2	必修

何を学ぶか

・問題の演習をすることによって2年時の英文法を定着させ、実際の会話や英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や自分の考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

・比較的短く易しい英文を使って、2年生で学習した文法項目のポイントを整理し、文法の基礎的な力を構築する。  
 ・また、問題演習をすることで情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。  
 ・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

- ① 予習を行い、練習問題を解いておく。
- ② 各レッスンの文法項目を理解し、例文を反復練習する。
- ③ やった問題を復習し、さらに理解を深める。
- ④ 学習した語句や表現・構文等を活用し、英語でまとめた文章を書く。

評価方法

・単元ごとに例文などの小テストを行い、その平均を2割とし、ライティング課題等の提出物、授業参加への意欲を1割として定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語表現Ⅱ	Part 1 L.8	/	■	■	■	■	■						/	/	/										/	/	/										
	構文UNIT5~UNIT6	/						■	■	■	■	■	/	/	/											/	/	/									
	構文UNIT7~UNIT8	/											/	/	/	■	■	■	■	■	■						/	/	/								
	構文UNIT9~UNIT11	/											/	/	/										■	■	■	■	■								
	構文UNIT12	/											/	/	/											/	/	/	■	■							

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-39	英語表現Ⅱ	3	A	2	必修

何を学ぶか

・問題の演習をすることによって2年時の英文法を定着させ、実際の会話や英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や自分の考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

・比較的短く易しい英文を使って、2年生で学習した文法項目のポイントを整理し、文法の基礎的な力を構築する。  
 ・また、問題演習をすることで情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。  
 ・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

- ① 必ず予習を行い、練習問題を解いておく。
- ② 各レッスンの文法項目を理解し、例文を反復練習する。
- ③ 演習問題を解き、さらに理解を深める。
- ④ 学習した語句や表現・構文等を活用し、英語でまとめた文章を書く。

評価方法

・単元ごと等で小テストを行い、その平均を2割とし、ライティング課題等の提出物、授業参加への意欲を1割として定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語表現Ⅱ	Part 1 L.8	/	■	■	■	■	■						/	/	/										/	/	/										
	構文UNIT5~UNIT6	/						■	■	■	■	■	/	/	/											/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	構文UNIT7~UNIT8	/											/	/	/	■	■	■	■	■	■					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	構文UNIT9~UNIT11	/											/	/	/										■	■	■	■	■								
	構文UNIT12	/											/	/	/											/	/	/	■	■	/	/	/	/	/	/	

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-40	英語演習	3	A文	3	選択

何を学ぶか

・大学共通テスト、四年制大学受験レベルの問題に取り組み、論理的思考を養うとともに、英語を正しく読む力を身につける。

学習目標

- ・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英文の読解力を高める。
- ・卒業時にCEFR B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

- 1 英文を読み、単語の意味や構文を学び、内容を理解する。
- 2 大意把握に有効な速読スキルを身につけるために速読テストを行う。

評価方法

・授業中に行う速読テストその他の小テストを1割、提出物や授業参加意欲を1割として、定期考査の点数と合わせて最終的に評価する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語演習	Lesson 1,2,3	/	■	■	■	■	■						/	/	/										/	/											
	Lesson 4,5,6	/						■	■	■	■	■	/	/	/											/	/										
	Lesson 7,8	/										■	/	/	/	■	■									/	/										
	Lesson 9,10	/											/	/	/			■	■	■	■					/	/										
	Lesson 11,12,13	/											/	/	/					■	■	■	■	■		/	/										
	Lesson 14,15	/											/	/	/											■	/	/	■	■							







番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-43	フードデザイン	3	S文	2	選択

**何を学ぶか**

- ・食育の推進や食文化の創造、発展のために必要な食生活の知識や技術を習得します。
- ・栄養、食品、調理、食文化の多様性、歴史等について事例を見ながら学習します。
- ・調理・栄養に関して簡単な制作を行い、食生活に役立てます。

**学習目標**

食生活に関する栄養、食品、調理などの基礎を学び、食育の推進を図ると共に、食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得し、食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を身につけます。

**学習方法**

- ・授業の前に教科書を一読し、概要をつかんでおきましょう。
- ・毎時間、授業に集中し、プリントを記入すること。すぐに活用できるようファイルを整理しておきましょう。
- ・実験・実習に対して積極的に取り組み、調理技術、手腕の上達を目指して努力しましょう。
- ・コロナ禍での調理実習について、学校で学んだ食品の衛生・管理や献立の知識・技術を各自の家庭でも実践し、レポートにまとめましょう。
- ・日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から生活情報を入手し、疑問を持った時、調べたり、自分の課題を見つけたり、周囲の人に提案したりしていきましょう。

**評価方法**

定期考査、課題レポート、提出物（プリントファイル、実習作品等）、授業や実験・実習に対する取り組み姿勢・態度について、「意欲・関心」「技能」50%、「知識・理解」「思考・判断・表現」50%、の4つの観点により判断します。コロナ禍では学校での調理実習の代わりに家庭での実践も評価します。

**授業予定**

▼は、定期考査の時期

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
フードデザイン	栄養と食品	■	■	■																														
	食生活の現状と課題				■	■	■																											
	食品の衛生・管理							■	■	■																								
	日本・世界の食文化									■	■	■	■																					
	食生活に関する制作実習															■	■	■	■	■														
	茶の湯の歴史・文化																					■	■	■	■									
	調理の計画と献立																								■	■								



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-45	総合的な探究の時間 (体育理論)	3	P	1	必修

**何を学ぶか**

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。  
 ② 生涯スポーツの観点から、運動をより効果的、効率的に実践できるための方法を学ぶ。  
 ③ 科学的根拠に基づいた研究および発表により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

**学習目標**

各種の運動の合理的な実践等の研究を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

**学習方法**

- ・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。
- ・各自のテーマをみつけて、研究する。
- ・代表者を決定し、体育系卒論発表会で学校代表として発表する。

**評価方法**

- ・研究、アンケート作成、実験方法思案、実験等を毎時間、評価する。
- ・スポーツへ関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解等を総合的に判断し評価する。

**授業予定**

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
総合的な 学習の時間 (体育理論)	剣道(男女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	バスケットボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	ソフトテニス(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	バレーボール(女子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	陸上競技(男女)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	硬式野球(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	サッカー(男子)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。